

令和 7 年度 第 3 回
東大和市介護保険運営協議会会議要録

東大和市健福祉部介護保険課

令和7年度第3回東大和市介護保険運営協議会会議要録

1 日時

令和7年11月11日（火）午後7時00分から午後8時30分まで

2 場所

東大和市役所会議棟第6、7会議室

3 出席者氏名

（1）協議会委員

竹原 厚三郎、小島 基永、水落 宏、吉沢 寿子、米持 尚利、山手 威人
沖 育子、細野 恵理子、齊藤 寛、金城 香里、尾崎 尚史

（2）事務局

関根健幸福祉部保険担当部長兼計画担当課長事務取扱、里見介護保険課長、
川田地域福祉課長、鮫島介護保険課介護保険係長、西尾介護保険課介護給付係長、
晴山介護保険課地域包括ケア推進係主任、田中地域福祉課高齢者支援係長

（3）その他

㈱ぎょうせい 国吉 広大、中井 雄彦

4 欠席者氏名

（1）協議会委員

齊藤 弘子、松岡 寛

5 会議の公開・非公開

公開（傍聴者なし）

6 議事

（1）高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画準備調査について

事務局から資料に基づき説明を行った。

① 変更点について

<介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>

・3ページの問3、前回、選択肢の中に「時々ある」を追加した方がよいという意見があったが、国の設問項目は原則変更しないこととしているため、「はい」を選択した際に、その頻度を問う選択肢を追加した。

・5ページの問10、6ページの問11について、それぞれ、新聞を読んでいますかという設問と、本や雑誌を読んでいますかという設問に対し、紙面以外での方法で新聞や雑誌を

見る場合もあるという意見があったため、設問文の中に「（紙面・電子版どちらも含みます。）」という文言を追加した。

- ・ 8 ページの項番 6。前回、専業主婦はどの選択肢を選ばよいか、また、引退した場合の記入の仕方が少し分かりづらいという意見があった。この件について、東京都へ照会したところ、高齢者の雇用形態を選択するものであるため、専業主婦の方は、過去に就業経験があれば「引退した」、過去に就業経験がなければ「職に就いたことがない」を選択するとの回答であった。また、引退した場合の記入方法については、「引退した」に、“最後に引退した年号を選択し、その年を記入する形に変更した。
- ・ 9 ページの問 7、高齢者の地域における役割、機会に関する設問で、シンプルに聞いたほうがよいという意見から、例示の括弧書きを削除した。

<在宅介護実態調査>

- ・ 1 ページ、問 4 に関する前回の意見で、性の多様化や LGBTQ への配慮が選択肢に欠けているとの指摘があった。後日、厚生労働省に、他の自治体からも性の多様化に配慮した選択肢の追加を求める意見が寄せられている状況が共有情報から確認された。国は次回以降の調査で検討する旨を回答している。

<介護保険事業計画準備調査>

- ・ 7 ページ、前回の説明のとおり、「死後の事務委任」に関する設問を項番の 5、医療・在宅での療養についての問 9 から問 10 に追加した。亡くなった後の事務手続きを行ってくれる人の有無、不安の有無、ある場合の受けたい支援を問う内容。
なお、本日配布した調査票案、問 9 の設問「終末期の支援や亡くなった後の事務手続きを行ってくれる人はいますか」の選択肢 2 において、「別居の家族」という項目に括弧書きで「親戚を含む」という注釈を追加予定。

<事業者に対する調査>

- ・ 9 ページ、前回の運協で BCP（業務継続計画）に関する設問を追加してはどうかとの意見があり、項番 6 として設問を追加した。全ての介護サービス事業者に対し BCP に基づく研修や訓練の定期的な実施が求められているため、その実施状況や課題を問う内容を設問として追加した。

<本アンケート調査の普及啓発について>

- ・ アンケート調査は、市公式ホームページや市公式 LINE、東大和市報 12 月 1 日号で周知予定。また、前回の運協での意見を踏まえ、調査票と一緒に回答協力のチラシを同封予定で、現在委託事業者のぎょうせいと調整中。

【質疑等】

委員 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の 7 ページ、問 2 の選択肢「3. よい指導者や組織・団体」は、「よい指導者」と「組織・団体」は別々の条件と捉えられるので、選択肢を分けた方がよいのではないか。また、9 ページ問 7 及び 10 ページ問 15 の選択肢は、それ

ぞれ5択ではなく4択に変更したほうがよいのではないかと。さらに、11ページ問5の選択肢「4. もともと飲まない」という表現はわかりづらい。最後に、12ページ問7の選択肢「4. 養成講座を受けたいとは思わない」と「5. 特に興味はない」の違いがはっきりしないので、5択ではなく4択に変更したほうがよいのではないかと。在宅介護実態調査についても同じ設問が入っている場合は同様。

→事務局 国モデル調査票の設問については選択肢の変更は難しいが、市独自の設問についてはご指摘を踏まえて再検討を行う。

委員 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の3ページ問3について、「1. はい」という選択肢に頻度を選ぶ欄を設けていただいたが、「毎食」、「週1回程度」、「月1回程度」では、頻度が空きすぎているように思う。「毎食」、「週1回程度」の間にもう一つ選択肢を入れてはどうか。

→事務局 指摘を踏まえて事務局で再検討する。

委員 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の2ページの問4の選択肢、民間賃貸住宅（一戸建て）とか借家とかの区別がわかりにくい。

→事務局 国の設問であり、各選択肢の違いについて必要に応じて国に確認する。

委員 3ページの問3の選択肢は、頻度、回数で分けず、「頻繁に」とか「たまに」とかの方がよいのではないかと。

→事務局 再検討する。

委員 在宅介護実態調査の2ページの問6、3番の食事の介助（食べる時）というのと、生活援助の12番の食事の準備（調理）は、両方とも食事の介助に当たるが、身体介護と生活援助に、何か明確な違いがあるのか。

→事務局 国の選択肢のため、厚労省に確認する。

委員 前回提出した意見について検討、反映されたことを確認した。前回、お茶や汁物に関する設問について「時々」という表現を追加する提案を行ったが、それも検討されたことが分かり安心した。市の設問の選択肢の一部に曖昧さがあり、認知症の対象者でも分かりやすい設問が必要であると思う。

→事務局 市独自の設問は変更できるため、対象者ができるだけ答えやすいアンケート調査を検討していきたい

事務局 本日の意見を事務局で再度精査し、できれば会長一任という形としたい。会長と調整のうえ、作業を進めることとしたい。

→竹原会長 市の事務局と私のほうで最終的な調整をさせていただいて作業を進めたいと思う。よろしいか。

（「異議なし」の声あり）

竹原会長 今日はどうもありがとうございました。お疲れさまでした。